

別紙 3

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 谷口昇 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授

研究要旨 多嚢胞性卵巣症候群を合併した若年発症後縦靱帯骨化症の一例
胸椎後縦靱帯骨化症術後感染の危険因子

A. 研究目的

多嚢胞性卵巣症候群と後縦靱帯骨化症は関連あるか検討すること
胸椎後縦靱帯骨化症術後感染の危険因子を検討すること

B. 研究方法

2007 年から 2020 年までに胸椎後縦靱帯骨化症に対して脊椎後方固定術を行った症例 43 例を感染群と非感染群の二群間比較を行った。

若年発症の後縦靱帯骨化症に多嚢胞性卵巣症候群を合併した症例の画像所見の検討を行った

(倫理面への配慮も記入)

インフォームドコンセントの実施と文書で同意の取得。

C. 研究結果

高身長 of 肥満群、長時間手術が感染しやすかった。

D. 考察

胸椎後縦靱帯骨化症は高度肥満のため展開、閉創といった軟部処置に時間がかかること

が多い。術後総武管理として早期陰圧閉鎖療法や脂肪組織が多い皮下にドレーン留置などの対応が必要と考えられた。

多嚢胞性卵巣症候群を伴う脊椎症例では後縦靱帯骨化症の可能性を考慮する必要がある。

E. 結論

胸椎後縦靱帯骨化症に対して後方除圧固定術を行った症例において感染群では高度肥満群、長時間手術が有意に多かった。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

整形外科と災害外科(0037-1033)71 巻 2 号 Page175-178(2022. 03)

2. 学会発表

2022 年日本整形外科学会

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし